

さいたま子ども大学 116人が入学

「生きる力」学ぶ

さいたま市内の小学4～6年生が、県内の大学や専門学校、通信制高校などで講義を受けたり体験活動を行う「2017年度 子ども大学 SAITAMA」(山口正人実行委員長)が開講した。入学生116人は来年1月まで、さまざまな分野の講座を約10回受講。子どもたちが学びの切り口を自発的に考え、「生きる力」を学ぶ。(勇有花子)

同大学が始まったのは4年前。教育団体など、さまざまな企業・団体が協力して実行委員会をつくって続けている。今回の会場は埼玉大学や芝浦工業大学から、製菓専門学校や農園、映画館まで。ウエディングケーキ作りやゲームのプログラム制作、地図の三次元測量、映画館の試写室



高校生のアドバイスを聞きながらワークを進める児童たち
＝さいたま市見沼区の芝浦工業大学大宮キャンパス

見学、農産物の収穫体験まで多岐に及んでいる。

本年度は、各学年で定員の4～6倍を上回る応募者があったが、抽選で選ばれた4、5年生各40人、6年生36人が入学した。24日に、さいたま市見沼区の芝浦工業大学大宮キャンパスで入学式が行われ、入学生と保護者らに加え、卒業生も出席した。

子ども実行委員長を務めるさいたま市立大牧小学校の5年生、明田川連生君は「大生のような気分の味わえる授業が楽しみ。入学をすることができなかった人の分も責任を持って頑張りたい」とあいさつ。昨年度の卒業生代表の同市立第二東中学校の1年生、紅谷愛乃さんは「(入学



本年度の入学生たち

できた)チャンスを生かして積極的に行動していったと「さい」と呼び掛けた。

入学式後は、通信制高校の「クラーク記念国際高等学校さいたまキャンパス」(今窪一太キャンパス長)の教諭と同校生徒がアシスタントに入り、各学年ごとにワークショップを実施。「コミュニケーションを取る」「お互いの意見を尊重すること・その意見をまとめること」の大切さを学んでもらおうと、入学生たちは2つのワークに取り組んでいた。